

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500206		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	さいき長寿苑そよ風		
所在地	大分県佐伯市鶴岡西町二丁目269番地		
自己評価作成日	平成27年7月	評価結果市町村受理日	平成27年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500206-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ついの棲家として利用者が心身ともに落ち着いて、笑顔があふれ、安心して過ごしていただける様、一人ひとりの自立支援にむけ、生き甲斐や生活の中で楽しみを見出しながら、本人の能力や残存機能の維持を行い、時に地域との交流を持ちながら、家族などに協力を得、各関係機関と連携を図り、今後も取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時に職員とともに作り上げた理念は、3年の月日の中にしっかりと息づき、利用者の生活により良い形で反映されています。「言葉遣いは、心遣い」をモットーに、利用者の目線に立った支援を心掛けています。職員は、その人らしい生活を継続させるために、個別支援に力を入れています。利用者個々の特性や個性等を把握し趣味(読書・写真撮影・習字・ぬり絵・文通等)の継続や特技(今できる事)を発揮する場面を作り、心身の状況に応じた、きめ細やかな支援を行っています。又、地域交流を考える中で、市内の佐伯市GH連絡協議会の協力を得て、「オレンジ・カフェ」を開設し地域の方々との交流促進と、「もの忘れ相談会」を開き、地域貢献に取り組んでいます。隣接する病院との医療連携も図れ、利用者・家族の安心となるとともに運営推進会議を通じて認知症ケア推進にも繋げており、重度化という現状に全職員が心を一つに真摯に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、世界一の『しあわせ創造企業』を目指します」を理念に掲げ、掲示し、高齢者が地域の中でその人らしく暮らし続けるための具体的なケアについて、職員全体で話し合い、実践している。	法人の理念を基本に、事業所の理念「地域、家族(グループホーム)の笑顔で支えあう」を作成しています。会議で毎月目標を立て、全職員で熱意を持って支援を行っています。家庭的で温かなホーム形成は、理念や行動指針に即した、ケアの実践が確認できます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の保育園児と話をしたり、散歩や外出レクなどで地域の人達と交流している。また、同敷地内の他事業所へ書道、日舞、フラワーアレンジメントなどの慰問を通し交流を図っている。	利用者が地域の一員として交流できる多くの機会を作る中で、保育園児や地域のボランティアとの交流、公園を散歩中に地域の方と会話をする等関わりを大切にしています。佐伯市GH連絡協議会を通し「オレンジ・カフェ」を開設し、地域社会との交流促進に繋げています。	地域との相互関係を考慮する中で、地域の行事や活動にも参加し、地域での生活基盤を確立されることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表(包括・区長・民生委員)の方に来て頂き、南部保健所「正しい手洗いの仕方・消毒方法」、病院薬剤部長「薬のあれこれ」、作業療法士「気軽にできる体操指導」、言語聴覚士・歯科衛生士「口腔機能の向上について」外部講師による助言・指導を頂く機会を設けた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、地域の代表の方々に助言・指導をもらった都度、職員間で、情報共有を行い話し合い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、各分野からの委員で構成され、定期的に事業所で開催されています。お茶会を開き、家族が地域の方々と相談しやすい環境を作っています。職員ミーティング時に会議の内容を伝え、サービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導や介護保険改正に伴う研修、困難事例など相談を行い、市町村担当者と密に連携を図り、助言・指導を得て実施している。	運営推進会議に包括支援センターから毎回参加があり、その中で事業所の現状を発信しています。相談や地域福祉に関して情報交換を行ったり、市主催の研修や講演会に参加し、ケア向上に反映させる等、行政との関係構築に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し、また困難事例に関して、市担当者へ相談・助言を得、身体拘束をしないケアに取り組む様子に努めている。	身体拘束、虐待防止の研修や事例検討等を行い、拘束によって利用者が受ける弊害について、全職員は正しく認識しています。管理者は言葉遣いについて、「言葉遣いは、心遣い」をモットーに、利用者と同じ立場、目線に立って話しかけることを指導しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の全体研修を介し学ぶ機会を持ちまた、随時、日々起きた虐待の事例を全職員に回覧し情報共有を行い、虐待について注意を払い、防止について努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の全体研修を介し学ぶ機会を持ち、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を深め、関心を持ち、必要に応じ適切な利用ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去や平成27年度介護保険改正についてなど、契約に関する重要事項の説明について時間を取り丁寧に理解・納得に努めている。特に料金や起こりうるリスク、医療連携体制の実際、退去を含め施設で出来る事、出来ないことを明確に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、家族面会時や家族会において意見・苦情・要望を伺い、職員で情報共有を行い、必要に応じ会議にて話し合いサービスの質の向上の努めている。	年2回食事を兼ねた家族会を開催し、約半数の家族が参加しています。アンケート調査により、家族の意見、要望を把握し、利用者の情報提供を行う中で、双方向的で積極的な意見交換が行われており、結果をサービス向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所全体の会議・部署会議・勉強会で出された提案をもとに、サービスの質の向上について話し合い、反映に努めている。	会議、ミーティング等で、職員の意見や提案を聞いています。管理者は日々ケアに入り、職員と意思疎通を図る中で、現場を良く知る職員の意見や考えを反映させ、働く意欲の向上と質の確保に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人がキャリアアップを目指し資格習得が出来る様、支援を行いまた、定期的健康診断を行い、職員の健康管理に努めたり、平成26年には、年間の休日数の変更があるなど働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の確保を設け、個々の資質を高め、研修報告書を回覧し、情報共有を行い、また、新入職員には3か月間トレーナーをつけ育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年度、市内の連絡協議会発足に向け各同業者と連絡調整を行い、また、懇談会を通じ交流を図る等取り組みをしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して過ごす事が出来る様、本人の話に耳を傾け、家族に話を伺い、出来るかぎりの協力を得、各関係機関と密な連携を図り支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のおかれている状況を考慮し、家族の話に耳を傾け、本人のより良い支援の為に、家族と密な連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況や、家族を含めた環境を考慮し、「その時」必要なサービスを紹介。各関係機関につなげ支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として一人一人を尊重し、本人らしさが引き出せる様に、職員で話し合い情報共有を行い家族と連携を図り、必要に応じ各関係機関と調整を行い、支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援してく中で、本人の心身の状況を考慮し、家族に相談・助言を得ながら、共に本人を支えていくステンスを築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が面会に来られ、家族と外出し、馴染みの人や美容院などの場所に出向きやすい様に努めている。また、市内をドライブし、本人がいろんな話を始め、回想法に努めている。	アセスメントで生活歴、馴染みの人や場所、趣味等を把握し、職員間で情報の共有を図り支援に繋がっています。家族の協力も多く、外出、外泊、馴染みの美容院に出かけたりと、関係の継続に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーでレクリエーションや行事、洗濯物たたみなど出来る家事をしてもらい、利用者同士が交流を持てる様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の状況に応じ、適宜、相談や各関係機関につなげ支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族に好きな事や若い頃のことなど聴き、家事や草むしり、家族に手紙を書く、写真を撮る、子どもと触れ合う、市内をドライブ、好きな歌を聴く・歌う、踊りを見るなど、職員で話し合い情報共有を行い、個々に応じ取り組んでいる。	利用者・家族に暮らし方の希望や意向を聞き取り、プランに反映しています。個別支援を重要視し、趣味の継続を生きがいとする利用者もいます。発語困難な人には非言語的コミュニケーションや選択肢を投げかけ、自己決定の場を作っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や各関係機関に話を伺い、情報を得、客観的に本人の全体像をつかむ様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況をケアプラン、介護援助計画をもとに関わり、細やかな記録と家族や各関係機関、職員間の報・連・相を密に行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の状況の小さな変化を見逃さない様に努め、本人、家族、必要に応じ各関係機関と連携を図り、モニタリングを行い介護計画を変更、実施に努めている。	アセスメントとモニタリング(3カ月毎)と利用者、家族、関係機関(医療)、職員の意見や気づき等を反映したケアプラン(6カ月毎見直し)が作成されています。「介護援助計画」で、職員のケア統一を図り、「ケアプラン実施記録」の備考欄には、実際のケアと職員の気づきを記録することで、利用者がより良く暮らすための支援に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表、支援経過、モニタリング実施記録などを事細やかに日々記入し、職員間で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かせる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じ、その都度、職員間で話し合い、時には各関係機関へつなげ、本人・家族のおもいが反映できる様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容美容やフラワーアレンジメント、施設内の慰問(踊り、習字、講和、大正琴)の参加、近隣の保育園の園児との触れ合い、公園や買い物、平成27年6月からオレンジカフェの活用を行い、楽しむ機会をもてれる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切に、本人の心身の状況を把握し、受診時に、かかりつけの先生に相談を行い、助言、指導を得、本人の健康管理に努めている。	利用者・家族の意向を支持しており、意思確認・同意に基づく医療機関の選択により、スタッフ同行の受診が行われています。心身状態の近況や変化については、家族との相互間の共有を大切に、安心な暮らしの支援に取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を把握し、小さな変化を見逃さず、施設内の他事業所に所属する看護師へ、適宜、報告・相談を行い、助言を得、家族に連絡を入れ、適切な受診・看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の心身の状況に応じ、一時的に認知症の悪化やADLの低下が顕著の場合、家族、医療機関と連携を図り、治療の状況を鑑み、早期に退院ができる様に努め行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況をみながら、本人・家族などと話し合いをもち、事業所でできることを十分に説明を行い、方針を立て共有し、地域の各関係者と連携を図り支援できる様に取り組んでいる。	重度化した場合における対応については、「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を表明しています。利用者や家族への説明・意思確認・同意を得る仕組みが画一化の中で、状況に応じた援助(病院との連携・職員の研修等)への体制づくりの営みの姿が伺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にマニュアルが有り、掲示。定期的に全体研修を行い全ての職員に周知し、必要に応じては、直接、施設内の他事業所に所属する看護師や医療機関受診時、医師や看護師へ相談・助言を得て実施に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練を含め、防災訓練を定期的に実施し、施設内の全体研修や会議で話し合いをもちまた、地域の消防署や区長・民生委員などにおいしい協力体制を築いている。	同施設の法人内他事業所との連携により、年2回(夜間想定を含む)の避難訓練(2階への避難)が行われており、消防署の指導を仰いでいます。防災対策の改善において、課題の発見(連絡網の整備等)・改善への営みに努める様子が伺えます。	地域との関連づくりの向上に努める姿勢が伺えます。災害状況や職員体制に準じた防災マニュアルの詳細化においては、全職員間での協議により、実践に即した対処の検討・支援の確保に期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、「本人らしさ」が出せ自尊心をきづつけない様、職員は言動に留意し言葉かけや対応を行っている。	姓に「さん」の声かけを基本としており、利用者との信頼関係(プライバシー・言葉遣い等)への介意・考慮、その重要性の把握と職員間の周知に努めています。「笑顔」ある暮らしづくりを支持しており、チーム力を大切に支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のおもいを本人の言動や家族から話を聴き把握に努め、本人の希望や自己決定ができる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ、食事・入浴やレクリエーション・行事などへの促し支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基礎化粧品を手元に置き使い、その日着たい洋服をタンスから出し脱ぎ着をし、訪問理容や家族と行きつけの美容院へ行くなどその人らしい身だしなみやおしゃれができる様支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアにある台所で職員が調理を行い、献立について話をしたり、一人ひとりの嗜好を把握し、食事のメニューを一部変更や食器拭き・テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にやっている。	献立は、法人による立案を基本に、状況(季節・行事・嗜好等)によりアレンジを加味しています。調理では、朝と夕と昼のご飯・汁物・フルーツを職員が担当しています。心身状況の把握・食への関心や趣を大切に、食事支援への配慮に繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量を日々記録している。本人の咀嚼や嚥下能力を考慮し、食事形態を配慮している。疾病に応じ、食事・水分量の制限のある方に関しては、医師に相談・指示・助言を得、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに努め、必要に応じては、本人・家族へ相談のもと歯科受診をし、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録しパターンを把握。排泄の自立支援に向け、適宜、話し合いトイレでの排泄を基本とし本人の状況に応じては、ポータブルトイレ・オムツの活用を行い、また、自尊心をきづつけない様、留意し排泄に関わる支援を行っている。	排泄の支援目標や個人差を大切に、チェック表を活用しながら状態に合わせた声かけや、自立に向けた支援が行われています。個々の職員の気づき・プライバシーへの配慮・連帯感(情報の共有・協同)への営みを大切に、援助に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医の指示・助言のもと、薬の処方や食事・運動・入浴などの日常生活の支援する上で留意点を聴き、苑内の他事業所に所属する看護師の協力を得、定期的排便が促されるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの心身の状況に応じ、家族や受診時、かかりつけ医へ相談を行い、気持ちよく入浴ができる様、支援に努めている。	個々のペース・動向(折々の思い)を踏まえながら、週3回の支援を基本としています。利用者の習慣や好み・心の動向を職員間で共有する中で、心身のリフレッシュ・リラックス出来る心地よさへの言葉かけを、清潔保持・入浴支援へと繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身の状況や、日中の活動量・夜間の過ごし方を考慮し、その都度、安眠や休息が適宜とれる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指示・助言のもと、薬情と照らし合わせながら薬を確認・把握に努め、管理し、服薬の支援を行い、症状の変化を記録。次回・受診時に医師へ記録用紙をもとに現状報告を行い、相談し助言が得られるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が出来る方には洗濯物たたみや料理の盛り付け等、可能な部分の役割を担って頂いている。レクは毎日行い、気分転換には公園へ散歩等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居時に、あらかじめ本人・家族と外出について話をを行った上で、本人の心身の状況を考慮し、苑内散歩や近くの公園に行ったり、車で市内をドライブに行くなど家族の協力を得ながら支援をしている。	個々の身体状況とその思いの把握を大切に、心身のリフレッシュに基づく外出支援に取り組んでいます。少人数での外気浴(駐車場からの園児見学等)や、近隣公園への散歩や買い物、ドライブ等が行われており、気分転換が図られています。家族との外出を支持しています。	心身状況の周知と、安全・安心な支援への営みを大切にしています。現状の外出の営み、家族と支えあう施設運営の在り方、今後の身体機能の低下に伴う支援、理念への立ち返り等を踏まえた幅広い協議・検討に、一層の期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、お金の管理については、話し合い、事務所で預からせて頂いており、本人・家族に相談し、適宜必要な物が購入できる様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の状況を考慮し、本人が直接、電話でやりとりしたり、難聴などで電話でのやりとりが困難な方へは、職員が代弁。手紙のやりとりについては、希望する方へ支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい生活空間ができる様、環境整備に十分配慮し、整理・整頓・掃除など行い環境美化に努め、季節感があるものをその場の雰囲気大切にしながらかざるなど工夫している。	各々の趣味や興味の把握と継続的な支援に取り組んでいます。職員との共同制作作品・個々の作品の展示により、作成への意向を深めている様子が伺えます。今の思いや相互の繋がりに寄り添う営みを大切に、家庭的な空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のおもいを大切に、過ごしたい方法の把握に努め、ソファやテーブル、椅子を活用し、その人らしく過ごせる様、本人や他の利用者へ声掛け働きかけるなど環境づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、居室に備え付けの家具の他、整理ダンスやソファ、テレビ、カセットデッキなどの設置や新聞購読、好きな雑誌を並べたり、造花や生花、家族写真を飾るなど、居心地よく過ごせる空間ができる様工夫している。	利用者や家族の思いの尊重を大切に、暮らしの利便性や安全性に着目する中で、家具・装飾品の設置・必需品や趣味・関心の品々等の配置や片づけに努めており、リラックス出来る生活空間づくりへの配慮の様子が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの自立した生活ができる様、移乗・移動時の介助の方法について話し合い、歩行支援用具やポータブルトイレの活用、手すり・人感センサーの設置を行い、適宜、モニタリングを行い支援している。		